

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075600124		
法人名	社会福祉法人 若宮会		
事業所名	グループホーム わきたの里		
所在地	福岡県宮若市脇田805番地 (電話) 0949-54-1082		
自己評価作成日	平成 25 年 7 月 25 日	評価結果確定日	平成 25 年 10 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームわきたの里は豊かな自然の中、「地域の方々と交流し、お互い助け合い、いつも笑いの絶えないような施設を目指します。」との理念の下、入居者様の思いに寄り添い、人生に携われる喜びや感謝を実感できるように職員それぞれが学んでいます。自立支援を大きな柱とし、入居者様の出来ない箇所を支援します。ホームでの日常生活が、入居者様にとって自分らしくいられる場であるように職員一同努力します。又、職員は日々技術の向上や、自己研鑽に励みます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 25 年 8 月 22 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然豊かな山中に位置し、同一法人の特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンターに隣接した鉄骨造り2階建ての閑静な環境にある。開設9年目となる事業所の利用者は、漸次に重症化しており地域行事の参加が難しいが、事業所内では季節毎の行事や研修の受け入れなど家族参加や地域とのつながりを大切にしている。事業所のリビング、廊下など共有空間は広く、利用者は敷地内の散歩を楽しんだり、その人らしくゆったりとしたペースで生活している。管理者は職員の率直な意見や要望を聴いたり、資格取得のための勤務シフト作り、有給休暇取得のすすめなど働きやすい環境に努力している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が意見を出し合い作った理念であるので、その意味をよく理解し自分の物とする。終礼時に唱和を行う。職員間で統一したケアを行えるように意見交換を行っている。	「地域の方々と交流し、いつも笑顔で、利用者の立場に立ち安心して納得のできるサービスの提供する」という事業所独自の理念を職員間で作っている。理念の実践に向け、笑顔で話しかけたり、統一したケアのサービスを提供するため、毎終礼時の理念の唱和や職員会議で話し合い、実現に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の慰問や、子供詩吟、盆踊りを通じ、来られた方々と交流できるように配慮している。地域の新聞や市報を提供し、地域の一員として意識を持っていただけるよう心がけている。	町内会には法人として加入しているが、地域活動として行事などに特に参加はしていない。事業所活動は法人と共に家族参加で敬老会、クリスマス会などを開催している。雑祭りに近隣の幼稚園児がお遊戯を披露したり、高校生の実習を受け入れるなどの交流がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域学生や地元企業の新入社員の職場体験学習の受け入れを積極的に行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、入居者様代表、ご家族代表、地域の民生委員や市役所の職員を交えて意見や質問を頂いている。その意見をこちらの介護等に取り入れその報告を行えるよう努力している。昨年はきちんと2か月に1度行えなかった。	運営推進会議はH24年度は2回、H25年度は現時点で1回開催している。開催時はサービスの利用状況や評価への取り組みなど現状報告をしている。	運営推進会議の定期開催を目指して頂きたい。また、委員の意見などをサービスの向上に活かし、議事録についてもその議事内容を記載して今後の運営に反映して頂きたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新手続きや他の手続きの際に市役所を訪問し、質問や相談を行うようにしている。こちらの現況も報告し協力関係を築けるようにしている。	介護保険更新手続きや他の不明なことなど、市役所を訪問し質問や相談を積極的に行っている。	今後は事業所便りなど持参し、事業所の現状報告を行うなど、行政との協力関係を構築し、質の向上を図って頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や計画作成担当者、介護者が身体拘束に関する研修会等に参加できるように体制を整えている。又、第三者委員会を通じ、質問や現場の状況を話し合っている。	日中は居室、玄関は施錠していない。玄関にはセンサーを設置しているが、外出傾向のある利用者についてはその傾向を把握しており、隣接施設にも見守りの声かけをしている。マニュアル・テキスト・パンフレットはあるが、身体拘束に関する研修が一部の職員にとどまっている。	身体拘束について全職員が学べる機会が持てるよう年間教育計画を構築し、研修を実施して頂きたい。全職員が身体拘束の内容とその弊害について理解し、身体拘束をしないケアの工夫に取り組んで頂きたい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員が虐待について理解し、話し合えるような場を作り勉強もやっている。日常のケアにおいて心理的虐待や身体的虐待、言葉の虐待がないように職員が注意喚起している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当者、介護者が権利擁護に関する研修会等に参加できるように体制を整えている。入居者様の権利や尊厳を守れるよう、第三者委員会を通じ質問や現場の状況を話し合っている。必要時にはご家族への説明も心がけている。	権利擁護に関する制度についての説明は、現在は行われていない。ケアマネージャーが権利擁護について自己研修し内部伝達をしている。テキストはあるがパンフレット・研修記録・報告書はない。	権利擁護に関する制度について、利用者・家族などに折に触れて説明をして頂きたい。管理者は年間教育計画を構築し、職員に対して権利擁護に関する研修を行い、研修記録・報告書などの整理をして頂きたい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にご家族に時間を頂き、契約書及び重要事項説明書の説明を行い、支援の内容についても理解をお願いしている。疑問・質問にも納得していただけるような説明を心がけている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で投書可能な苦情、ご意見受付ポストを設置している。又、苦情受付窓口を重要事項説明書に明記し、玄関にポスターを貼るなどの掲示も行っている。面会の時にも率直な意見を頂けるような関係作りにも努めている。	利用者・家族代表が運営推進会議に出席しており、意見や思いを述べる機会はある。また、家族訪問時には積極的に意見や思いを聴いている。外出の機会を増やしてほしい、コスモスの花を見に行きたいなど、家族の希望を運営に反映している。意見箱を設置している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員介護を開催し、職員同士での意見交換や提案を出せるような場を設けている。それを反映できるような環境を整えている。管理者も職員一人ひとりの意見を聞きやすいような関係作りを意識している。	ケアマネージャーが自己評価の内容を職員に口頭で尋ねて集約し作成している。職員はその場で意見や気づきを日常的に提案している。また、職員会議でも言いやすい環境になっている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	心身のリラックスの為に、有給休暇を取りやすいような職場を心がけている。また職員の意見を取り上げてもらい、やりがいに繋がるように努力している。また、勤務態度や努力を賞与に反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は、性別や年齢、経験、資格ではなく、介護に取り組む姿勢ややる気を重視している。また、高齢者に対する考え方や接し方も参考にしている。個々も特性を活かし、能力に応じた役割を担えるような職場を目指している。	採用選考では、性別や年齢などを理由に対象から排除しないようにしている。定年は60才だが65才まで継続可能である。有給休暇取得をすすめたり、資格取得のための勤務シフト作りなどに力を注ぎ、離職者を最小限に抑える努力をしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関して理解を深められるような勉強会を、今後行っていく予定である。管理者だけでなく、職員も外部研修に参加できる体制を作ること検討している。	人権教育に関し、ケアマネージャーが自己研修し、必要事項に関しては、終礼時に数人の職員に伝達している。計画的な人権教育研修は行われていない。テキストはあるが研修記録・報告書はない。	年間教育を構築し全職員に、計画的な人権教育をして頂きたい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数により研修会等に参加し、研修報告としてほかの職員に伝達をしている。それに伴い研修会を行う。会議には全員参加できないので、文書として記録し回覧している。新入職員に対しては主な指導は主任があたり、他の職員がサポートする体制をとっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の徘徊ネットワークや高齢者見守りネットワークに参加している。また、外部研修の際には他の参加者と意見交換を図り、情報交換を行っている。それにより相互のサービスの質の向上を目指している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時より、不安因子やニーズ、ADLの状況を把握出来るようにご本人の思いを傾聴する。入居後は、安全安楽な生活を送っていただけるよう、常に寄り添うケアを目指している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族様には一日の流れや、施設の設備等や支援の計画をお話している。その時に要望があればお聞きし、支援計画実行に反映している。入居後も疑問や不安の解消に積極的に関わられるような関係作りを目指している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にフェイスシートでアセスメントを行っているが、家族からのお話を聞いたり、ご本人の以前の生活歴、表に出ないニーズや思いを把握出来るように対話している。介護支援専門員が原案を出し職員と話し合い、どんな支援が良いのか話し合っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者様は人生の先輩である」「尊い人生に関われる喜び」を個々の職員が意識して接するように心がけている。入居者様の残存機能の向上や、得意分野で力は発揮できるような環境を提供し、お互いを支えあっているという意識を作り出している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつも訪れて下さるご家族には、その時に体調やご様子などの報告を行っている。こちらが気になった事や普段の言動から感じた事などを相談もしている。面会が難しいご家族には電話にて報告・相談を行っている。ご家族に相談する事で入居者様の支えであるということ意識していただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から同意を得たうえで、電話や手紙の取次をしている。友人にはがきを出したいとの要望があれば、預かって投函している。受診の際、馴染みの場所が通り道になるよう、つかの間でもその場所を訪れるようにしている。	職員は、馴染みの人や場所について、アセスメントや日頃の関わりから把握している。ドライブや通院の途中で馴染みの場所に立ち寄ったり、知人に電話や手紙を出したり、家族と近所の人と一緒に訪問してもらうなど、関係が途切れないように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事をするテーブルは席を決めているが、余暇の時間やお茶の時間はおしゃべりがしやすいよう、仲の良い方同士で座ってもらっている。他の方も声掛けをし、孤立する方がいないよう、話題を提供し和やかな雰囲気作りを心がけている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている入居者様の面会にうかがったり、ご家族に連絡をしご様子をお尋ねしたりしている。他所でも継続した支援が続けられるよう、情報の提供を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が主体になり、入居者様の思いを傾聴し、要望や意見や意向をを把握するように努めている。その情報を職員で共有し支援に役立てている。ご家族に今までの生活歴を伺い、それを反映させるようにしている。意思表示が難しい方には、表情や言動で意思をくみ取るように努力している。	利用者との日々の関わりの中から、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては表情や行動などから判断し、家族の訪問時に聴いたりするなど利用者の思いや意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様がこれまで生きてこられた歴史を活かし、その人らしい生活を継続できるよう、ご本人やご家族、面会に来られる方などからお話を伺っている。職員がそれぞれ違うアプローチでお聞きしてその情報を共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、ケア記録等で現状把握を行っている。気になった事は職員間の連絡ノートにて確認している。回診記録や病院受診の記録で心身状態の把握も行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で情報収集を行い、サービス担当者会議を行っている。入居者様やご家族の意向や要望も反映させたいが、なかなか参加が実現できていない。今現在に即したニーズを取り込んだ介護計画を目指している。モニタリングも、職員の日頃の様子観察の状態も聞きながら、日々変化する入居者様の状態を把握できるようにしている。	利用者や家族の要望を担当の職員が把握し、他の職員や主治医にも意見を聞きながら、ケアマネージャーが作成している。ケアの実践を日々確認しながら3ヶ月毎に担当者会議でモニタリングを行い、6ヶ月毎に、また状態変化の都度プランの見直しを実施している。家族からは介護計画を了承した署名・捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	なるべく入居者様の状態で気づいた事は、小さな事でも日誌や経過記録に記録するように促している。朝・夕の申し送り時や職員会議の時に情報を共有し、実際の支援に生かせるように日々記録している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、介護職員や介護支援専門員、管理者が対応しているが、要望や必要があれば外部サービスの紹介も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館を利用し、読書の為の本や皇室の写真集や、地元の歴史資料などを借りて入居者様に提供している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族様やご本人に特別な要望がない限り、ホームの協力医に回診や受診を依頼している。以前よりのかかりつけ医の希望があれば継続できるよう支援している。	基本的に利用者・家族が希望するかかりつけ医を受診している。協力病院の訪問診療を月2回実施している。協力病院以外のかかりつけ医を診療する際は家族が付き添っているが、付き添えない場合は事業所で柔軟に対応している。受診後の連絡方法は、家族と話し合い合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特別養護老人ホームの看護師がホームも兼務しており、夜間帯でも連絡が取れるようにしている。また、協力医の看護師にも情報を提供し連携を図っている。緊急時に迅速な対応ができる体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は管理者か介護支援専門員が病院に出向き、介護計画やアセスメントを参考とした短期入院データを作成し情報の提供を行っている。退院時には主治医に今後の生活を継続するために必要な情報や支持をもらい、安心して退院後の生活を送れるように支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化・終末期介護に関する指針」を取り決め書面にしており、入所時に本人・ご家族に説明している。ご本人や家族の要望をくみ取りそれを介護に反映するために医療関係や馴染みの方も含めた会議を開催することが当面の目標である。	重度化した場合や終末期のあり方については事業所の方針があり、明文化されている。入所時や折に触れて支援方法を、利用者や家族、職員、かかりつけ医などと話し合っており、利用者や家族の意向に沿った支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアル、参考資料、かかりつけ医一覧を、いつでも回覧したり用いれるように備えている。また、管理者や介護支援専門員が研修を受け、職員に伝達している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練を昨年は年1回開催している。隣接の特養とも協力体制を作っている。また、消防署にも訓練に参加していただき、適切な助言や意見を伺いながら、安全な避難方法の確立を目指している。	母体法人と合同の訓練を年2回計画しているが、H24年度は1回、H25年度は現時点で未実施である。近隣に住宅が少ない立地環境のため避難訓練の呼びかけも特に行っていない。水、ポータブルなどの非常用備品は事業所内に準備されているが、訪問当日は賞味期限が切れているということで食料品はなかった。	避難訓練は、最低年2回義務付けられているので、年間計画をたてて消防署に協力を仰ぎながら実施して頂きたい。地域住民の参加が難しい状況なので、運営推進会議などで委員の参加協力を要請するなどして頂きたい。また、常備品等は賞味期限含め定期的な確認をして事業所内に準備して頂きたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で気を付けながら、入居者様に対する接遇に配慮している。入居者様の尊厳やプライドに配慮できたいが、不適切な言動がないか確認している。お互いに注意できる環境を作れるよう努力している。	ケアマネージャーがプライバシーに関する要項をまとめ、利用者に対する職員の日々の声かけや対応に気をつけている。職員間でも、その都度口頭や終礼時など対応を確認し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日頃の言動や表情を観察し、要望や不安を表出していただけるように働きかけている。直接希望を伺える入居者様には声掛けをし、お話をお聞きしている。ご家族様にも協力を依頼している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まっているが、離床の時間や食事、入浴、就寝時間はなるべくご本人の希望に沿えるように努力している。又、レクリエーションや体操にも参加、不参加はご本人の希望を優先している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出等の衣類はご本人と相談しながら選んでいる。自己決定が難しい方には、職員が季節や好み、いつも同じ物にならないようなどを配慮し選んでいる。ビューティヘルパーを依頼しておりひと月に1度来てもらっている。その方らしい髪型にしてもらい自分らしくいていただけるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者のサービスを依頼しているが、入居者様の嗜好にあった物、季節を感じられる物を提供できるよう、業者との会議を開催している。食事の形態等もその都度細やかに対応できている。	業者の調理員が事業所内で利用者に応じた形状にして提供している。一部の利用者がテーブル拭きや片付けを手伝っている。職員の内ひとりと一緒に同じ食事をし、他職員は食事介助行いながら別の食事をしている。利用者の要望を取り入れながら、月1回の誕生日や季節に応じたメニューで食事を楽しむ工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量はその都度記録している。お茶やジュースコーヒーなど嗜好に合う物を提供し水分摂取を促している。食事は毎回摂取量を把握し、必要量が摂取できていない時は主治医に相談し、経口栄養剤や輸液の指示を受けている。なるべく自力摂取していただけるよう、食器や形態を工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは朝食前と夕食後のそれぞれの能力に応じた支援を行っている。夕食後に義歯の清潔も保持出来るように洗浄を行っている。毎食前には緑茶によるうがいを行い、口腔内の清潔保持と、口臭が生じないように図っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄のパターンを把握し、それぞれの対応を行っている。排泄委員を中心に、紙パンツやパッドの適切な交換時間や使用の有無を随時検討している。自分でトイレで排泄していただけるよう自立支援を行っている。羞恥心やプライド尊重に配慮して声掛けや誘導を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、利用者に応じたオムツなど使用している。利用者の表情やしぐさから排泄のパターンを読み取り、さりげない排泄誘導を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、排便パターンを把握している。必要時には医師の指示のもと排便コントロールを行い、緩下剤等を使用している。また、便秘の予防として毎朝ヨーグルト飲料を飲んでいただいたり、水分摂取を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	その日の入居者様の体調、希望に合わせて入浴の有無や順番を決めている。拒否がある場合は無理強いせず、時間をおいて気分転換をされた後に再度声掛けを行っている。一般浴が難しい方には、安全安楽な入浴が出来るように、隣接する施設の入浴機械にて入浴していただけるようにしている。	入浴日は月・金曜の週2回と設定しているが、利用者の状態や希望に応じ柔軟に対応し、入浴を楽しめる工夫をしている。入浴拒否する利用者には声かけやタイミングをはかるなどし、入浴できるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転がある入居者様には、日中の活動を促すなどし、夜間に良眠できるように支援している。場合により、昼間に短時間でも昼寝をしていただき睡眠時間を確保している。安全に休んでいただけるよう、量を用いたり、寝具の調整をし環境整備をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を理解し、安全に服薬介助が出来るように、その都度職員に伝達している。副作用についても把握し、症状の変化に気づけるよう努力している。又、誤薬を予防するため、服薬時に名前、日にち、服用時間の確認を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書が好きな方には本を購入したり、散歩が好きな方には散歩にお連れしたりし、個々の好みに沿った支援をしている。やりがいを感じれるよう、洗濯物を畳んでもらったり工作をしていただいたりしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の強い入居者様には、ご家族にお願いして外泊をしていただいている。お墓参りや外食など、ご家族様と相談し可能な限り外出し気分転換を図っていただいている。今後は職員が外出支援を行えるような、体制作りが目標である。	天候や利用者の体調・希望に応じて敷地内の散歩をしている。季節に応じて、花見、コスモス、キク展や弁当持参のドライブに出かける支援を行っている。外泊、買物、お墓参り、知人宅訪問などの意向の利用者には、家族同伴の外出を積極的に推奨している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はほぼ金銭管理はご家族がされているが、自分で少額を管理されている入居者様には、ご家族に了解を得たうえで、要望を聞いて買い物支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の取次をしたりはがき等の代筆を行い、関係を継続できるよう支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごしていただけるよう清潔を保ち、温度管理等も行っている。花を飾ったり手作りの作品を掲示し、季節感を演出している。動線を妨げないよう、安全な環境整備を心がけている。	共有空間は広く、利用者の作品や日頃の活動写真などが貼られている。居間や廊下に置かれたソファ、畳の間があるリビングダイニングで利用者がゆっくりと寛いでいる。室内の光や音、温度なども配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が仲良く過ごせる為、テーブルの席次や、ホールのソファの位置を調整している。テレビを一人で見たい入居者様には、別に椅子をご用意している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅におられた頃の仏壇や家具を、ご家族にお持ちいただき、心安らぐ空間になるように配慮している。ベッドや寝具も心身機能に応じ、量なども用いて安眠していただけるように検討している。	使い慣れた家具、テレビ、仏壇等をはじめ、家族の写真などが置かれている。レクリエーションで作った作品等が飾られ、それぞれの利用者の個性が感じられる。安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	柱があまりなく、広々とし開放感を感じれるような環境を提供している。歩行器や車いすでも生活しやすいように、動線の確保や歩行の妨げとなるような物を配置しないように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が意見を出し合い作った理念であるので、その意味をよく理解し自分の物とする。終礼時に唱和を行う。職員間で統一したケアを行えるように意見交換を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の慰問や、子供詩吟、盆踊りを通じ苑に来られた方々と交流できるように配慮している。地域の新聞や市報を提供し地域の一員として意識を持っていただけるよう心がけている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域学生や地元企業の新入社員の職場体験学習の受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、入居者様代表、ご家族代表、地域の民生委員や市役所の職員を交えて意見や質問を頂いている。その意見をこちらの介護等に取り入れその報告を行えるよう努力している。昨年はきちんと2か月に1度行えなかった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新手続きや他の手続きの際に市役所を訪問し、質問や相談を行うようにしている。こちらの現況も報告し協力関係を築けるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や計画作成担当者、介護者が身体拘束に関する研修会等に参加できるように体制を整えている。又、第三者委員会を通じ質問や現場の状況を話し合っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員が虐待について理解し、話し合えるような場を作り勉強もやっている。日常のケアにおいて心理的虐待や身体的虐待、言葉の虐待がないように職員が注意喚起している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当者、介護者が権利擁護に関する研修会等に参加できるように体制を整えている。入居者様の権利や尊厳を守れるよう、第三者委員会を通じ質問や現場の状況を話し合っている。必要時にはご家族への説明も心がけている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にご家族に時間を頂き、契約書及び重要事項説明書の説明を行い、支援の内容についても理解をお願いしている。疑問・質問にも納得していただけるような説明を心がけている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で投書可能な苦情、ご意見受付ポストを設置している。又、苦情受付窓口を重要事項説明書に明記し、玄関にポスターを貼るなどの掲示も行っている。面会の時にも率直な意見を頂けるような関係作りに努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員介護を開催し、職員同士での意見交換や提案を出せるような場を設けている。それを反映できるような環境を整えている。管理者も職員一人一人の意見を聞きやすいような関係作りを意識している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	心身のリラックスの為に、有給休暇を取りやすいような職場を心がけている。また職員の意見を取り上げてもらい、やりがいに繋がるように努力している。また、勤務態度や努力を賞与に反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は、性別や年齢、経験、資格ではなく介護に取り組む姿勢ややる気を重視している。また、高齢者に対する考え方や接し方も参考にしている。個々も特性を活かし、能力に応じた役割を担えるような職場を目指している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関して理解を深められるような勉強会を今後行っていく予定である。 管理者だけでなく、職員も外部研修に参加できる体制を作ることを検討している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数により研修会等に参加し、研修報告としてほかの職員に伝達をしている。それに伴い研修会を行う。会議には全員参加できないので、文書として記録し回覧している。新入職員に対しては主な指導は主任があたり、他の職員がサポートする体制をとっている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の徘徊ネットワークや高齢者見守りネットワークに参加している。また、外部研修の際には他の参加者と意見交換を図り情報交換を行っている。それにより相互のサービスの質の向上を目指している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時より、不安因子やニーズ、ADLの状況を把握出来るようにご本人の思いを傾聴する。入居後は、安全安楽な生活を送っていただけるよう、常に寄り添うケアを目指している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族様には一日の流れや、施設の設備等や支援の計画をお話している。その時に要望があればお聞きし、支援計画実行に反映している。入居後も疑問や不安の解消に積極的に関わられるような関係作りを目指している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にフェイスシートでアセスメントを行っているが、家族からのお話を聞いたり、ご本人の以前の生活歴、表に出ないニーズや思いを把握出来るように対話している。介護支援専門員が原案を出し職員と話し合い、どんな支援が良いのか話し合っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者様は人生の先輩である」「尊い人生に関われる喜び」を個々の職員が意識して接するように心がけている。入居者様の残存機能の向上や、工作や編み物、習字など個々に発揮できるような環境を提供し、職員と共に、季節ごとの飾りつけや作品を作っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつも訪れて下さるご家族には、その時に体調やご様子などの報告を行っている。ことが気になった事や普段の言動から感じた事などを相談もしている。面会が難しいご家族には電話にて報告・相談を行っている。ご家族に相談する事で入居者様の支えであるということを意識していただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から同意を得たうえで、電話や手紙の取次をしている。友人にはがきを出したいとの要望があれば、預かって投函している。受診の際、馴染みの場所が通り道になるよう、つかの間でもその場所を訪れるようにしている。仏様参りなども家族にお願いしてお連れしていただいている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、食事をするテーブルは席を決めている。仲の良い方同士で座ってもらっている。居室の閉じこもりがちな入居者様には声掛けをし、孤立する事がないよう、話題を提供し和やかな雰囲気作りを心がけている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている入居者様の面会にうかがったり、ご家族に連絡をしご様子をお尋ねしたりしている。他所でも継続した支援が続けられるよう、情報の提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が主体になり、入居者様の思いを傾聴し、要望や意見や意向をを把握するように努めている。その情報を職員で共有し支援に役立てている。ご家族に今までの生活歴を伺い、それを反映させるようにしている。意思表示が難しい方には、表情や言動で意思をくみ取るように努力している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様がこれまで生きてこられた歴史を活かし、その人らしい生活を継続できるよう、ご本人やご家族、面会に来られる方などからお話を伺っている。職員がそれぞれ違うアプローチでお聞きしてその情報を共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、ケア記録等で現状把握を行っている。気になった事は職員間の連絡ノートにて確認している。回診記録や病院受診の記録で心身状態の把握も行っている。精神状況は日々変化するので、表情や言動に注意して記録している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で情報収集を行い、サービス担当者会議を行っている。入居者様やご家族の意向や要望も反映させたいが、なかば参加が実現できていない。今現在に即したニーズを取り込んだ介護計画を目指している。モニタリングも、職員の日頃の様子観察の状態も聞きながら、日々変化する入居者様の状態を把握できるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	なるべく入居者様の状態気づいた事は、小さな事でも日誌や経過記録に記録するように促している。朝・夕の申し送り時や職員会議の時に情報を共有し、実際の支援に生かせるように日々記録している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、介護職員や介護支援専門員、管理者が対応しているが、要望や必要があれば外部サービスの紹介も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館を利用し、読書の為の本や皇室の写真集や、地元の歴史資料などを借りて入居者様に提供している。新聞を毎日読んでいただけるよう用意している。英語を勉強あいたいと言われる入居者様に資料を提供している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族様やご本人に特別な要望がない限り、ホームの協力医に回診や受診を依頼している。以前よりのかかりつけ医の希望があれば継続できるよう支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特別養護老人ホームの看護師がホームも兼務しており、夜間帯でも連絡が取れるようにしている。また、協力医の看護師にも情報を提供し連携を図っている。緊急時に迅速な対応ができる体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は管理者か介護支援専門員が病院に出向き、介護計画やアセスメントを参考とした短期入院データを作成し情報の提供を行っている。退院時には主治医に今後の生活を継続するために必要な情報や支持をもらい、安心して退院後の生活を送れるように支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化・終末期介護に関する指針」を取り決め書面にしており、入所時に本人・ご家族に説明している。ご本人や家族の要望をくみ取りそれを介護に反映するために医療関係や馴染みの方も含めた会議を開催することが当面の目標である。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアル、参考資料、かかりつけ医一覧を、いつでも回覧したり用いれるように備えている。また、管理者や介護支援専門員が研修を受け、職員に伝達している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主避難訓練を昨年は年1回開催している。隣接の特養とも協力体制を作っている。また、消防署にも訓練に参加していただき、適切な助言や意見を伺いながら、安全な避難方法の確立を目指している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で気を付けながら、入居者様に対する接遇に配慮している。入居者様の尊厳やプライドに配慮できないが、不適切な言動がないか確認している。お互いに注意できる環境を作れるよう努力している。入居者様の心中を察した声掛け、対応をしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日頃の言動や表情を観察し、要望や不安を表出していただけよう働きかけている。日常生活の中での決定は、ご自身で行っていただいている。直接希望を伺える入居者様には声掛けをし、お話をお聞いている。ご家族様にも協力を依頼している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まっているが、離床の時間や食事、入浴、就寝時間はなるべくご本人の希望に沿えるように努力している。その日ごとの希望を優先している。出来ない場合は、納得のいくまでお話をさせてもらっている。又、レクリエーションや体操にも参加、不参加はご本人の希望を優先している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出等の衣類はご本人と相談しながら選んでいる。自己決定が難しい方には、職員が季節や好み、いつも同じ物にならないようなどを配慮し選んでいる。ビューティヘルパーを依頼しておりひと月に1度来てもらっている。その方らしい髪型にしてもらい自分らしくいていただけるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者のサービスを依頼しているが、入居者様の嗜好にあった物、季節を感じられる物を提供できるよう、業者との会議を開催している。嚥下や、食事量を観察し形態等もその都度細やかに対応できている。箸やスプーンの形状を変えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量はその都度記録している。お茶やジュースコーヒーなど嗜好に合う物を提供し水分摂取を促している。食事は毎回摂取量を把握し、必要量が摂取できていない時は主治医に相談し、経口栄養剤や輸液の指示を受けている。なるべく自力摂取していただけるよう、食器や形態を工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは朝食前と夕食後のそれぞれの能力に応じた支援を行っている。夕食後に義歯の清潔も保持出来るように洗浄を行っている。毎食前には緑茶によるうがいを行い、口腔内の清潔保持と、口臭が生じないように図っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄のパターンを把握し、それぞれの対応を行っている。排泄委員を中心に、紙パンツやパッドの適切な交換時間や使用の有無を随時検討している。自分でトイレで排泄していただけるよう自立支援を行っている。羞恥心やプライド尊重に配慮して声掛けや誘導を行っている。失禁時にもプライドに配慮した更衣介助を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、排便パターンを把握している。必要時には医師の指示のもと排便コントロールを行い、緩下剤等を使用している。また、便秘の予防として毎朝ヨーグルト飲料を飲んでいただいたり、水分摂取を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	その日の入居者様の体調、希望に合わせて入浴の有無や順番を決めている。毎回同じ順番にならないようにその日毎に配慮している。拒否がある場合は無理強いせず、時間をおいて気分転換をされた後に再度声掛けを行っている。出来ない箇所を援助し、できない箇所を支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転がある入居者様には、日中の活動を促すなどし、夜間に良眠できるように支援している。場合により、昼間に短時間でも昼寝をしていただき睡眠時間を確保している。安全に休んでいただけるよう、量を用いたり、寝具の調整をし環境整備をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を理解し、安全に服薬介助が出来るように、その都度職員に伝達している。副作用についても把握し、症状の変化に気づけるよう努力している。又、誤薬を予防するため、服薬時に名前、日にち、服用時間の確認を行っている。拒薬がある入居者様には、薬を飲みこまれるまで見守りを行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書が好きな方には本を購入したり、散歩が好きな方には散歩にお連れしたりし、個々の好みに沿った支援をしている。やりがいを感じれるよう、洗濯物を畳んでもらったり工作をしていただいたりしている。ご家族から以前の趣味に関する情報等を提供してもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の強い入居者様には、ご家族にお願いして外泊をしていただいている。お墓参りや外食など、ご家族様と相談し可能な限り外出し気分転換を図っていただいている。今後は職員が外出支援を行えるような、体制作りが目標である。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はほぼ金銭管理はご家族がされているが、自分で少額を管理されている入居者様には、ご家族に了解を得たうえで、要望を聞いて買い物支援を行っている。なるべく入居者様の所持金の金額を把握し、トラブルを防いでいる。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の取次をしたりはがき等の代筆を行い、関係を継続できるよう支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごしていただけるよう清潔を保ち、温度管理等も行っている。花を飾ったり手作りの作品を掲示し、季節感を演出している。動線を妨げないよう、安全な環境整備を心がけている。夏は日光が当たり暑くなるので、室温調整に気を付けている。クーラーの吹き出し口に入居者様がおられないように注意している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が仲良く過ごせる為、テーブルの席次や、ホールのソファの位置を調整している。一人を好まれる入居者様には、一人用の机や椅子を用意している。面会室でゆっくりできるように低めのテーブルを置いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅におられた頃の仏壇や家具を、ご家族にお持ちいただき、心安らぐ空間になるように配慮している。ベッドや寝具も心身機能に応じた物を用いて安眠していただけるように検討している。家具も馴染みの物をご自宅から持ってきていただいている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	天井が高く柱もあまりないので、広々とし開放感を感じれるような環境を提供している。歩行器や車いすでも生活しやすいように、動線の確保や歩行の妨げとなるような物を配置しないように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない